

「先生のがっこう」実践交流会

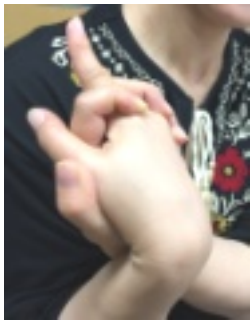
子どもの思いを中心に

8月31日、「先生のがっこう」実践交流会が和泉市コミュニティセンターで行われました。「支援学級の教育実践」のテーマで、発達性協調運動障害についてのミニ学習会と、中学校支援学級からの実践報告がありました。

発達性協調運動障害についてのミニ学習会

和泉市立小学校の原田里美さんに講演していただきました。

- ・麻痺がないのに不器用
 - ・姿勢が悪い
 - ・文字が下手
 - ・体育・工作などが苦手
- といった特徴があり、ADHDや自閉性スペクトラム症と併発する割合が高くなっています。



体験で取り組んだ、手を組んだ状態で指示された指を上げる課題。「難しい！」という声があちこちから上がりました。

中学校支援学級の実践報告

高石市の三橋絵美さんから、中学校の支援学級でつけた力や個別にどのような支援を行っているのか、通常学級の生徒との交流、進路指導、小中連携についてなど、ていねいな取り組みを報告していただきました。

また、参加者からの質問を受けて、ルビが打ってあるチャレンジテストを取り寄せた話が紹介されました。書くことが苦手な子どもにたくさんの板書や提出物を

求めるのではなく、担任や保護者など大人の側に理解を求め、子ども本人の思いを大事にした支援をしていけばよいのではないかという提案もありました。たくさんの質問や意見が活発に交わされ、充実した交流会となりました。

参加者の感想

。体験では、自分の体が自分のものでないような感覚がありました。これで日常生活を送るのはすごく大変だなと思いました。こんな感覚を理解することは大切だと思いました。

。中学校での取り組みをていねいに報告してくださり、とても勉強になりました。小学校でも高校や大学、就職などを見通した話を保護者の方々とすることも多いので、一緒に考えていく材料をいっぱいもらえたなと思います。子どもたち一人ひとりに合った明るい将来を考えていけたらいいなと改めて思いました。

原水爆禁止世界大会に参加して①

広島・長崎に原子爆弾が落とされたのは1945年――74年前になりました。8月「核兵器のない平和で公正な世界のため」をテーマに長崎市で原水爆禁止2019年世界大会が行われました。

大阪代表団は原水爆禁止大阪府協議会として270名参加。開会総会には日本各地から1300名が参加しました。

開会総会 7日の開会総会は田上長崎市長をはじめ各国からの挨拶がありました。74年前の原爆による被害の悲惨な実情を主催者――川野浩一大会実行委員長が語り、核兵器禁止条約に対する日本政府の姿勢を批判し、正すよう訴えました。驚いたのは、想像以上に外国人が多く参加していたことです。

核保有国代表とも言えるアメリカ・ロシアからも核兵器の否定の言葉があり、国として見るのではなく、一人ひとりが意見を持っていてことを実感しました。

ののでしょうか」という言葉が何度も出てきました。

平和への思い強く

この時期になれば度々ニュースに戦争のことが取り上げられます。テレビ越しに被爆者の思いを見て聞いて、世界が平和になればいいのにと漠然と思います。直接その人の話を聞くのとは違うと感じました。「早く平和になってほしい」「原爆はもう誰も経験してほしくない」「この世に核は必要ない」そんな訴えがひしひしと伝わってきた初日でした。

(笠松 弥央)



泉北教組に加入して子どもと教育を守ろう！